

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105396
法人名	有限会社 トータルケア果の実
事業所名	グループホームこころ今出
所在地	松山市西垣生町1607-1
自己評価作成日	平成22年12月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当該ホームは、大きな道路が無いので車の通りも少なく静かな住宅地にあります。近くには鯉が生息する河川があり散歩がてら餌やりに出かけ自然や地域の人達との触れ合う機会づくりに努めています。定期的にボランティアの方を招き演芸やマジックショー等を開催しています。その際には地域住民の方を招き交流の機会をつくるよう努めています。また、地域の季節行事には積極的に参加し地域に根ざした運営が実現できるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所では、この1年「職員のスキルアップ」に力を入れ取り組まれており、2ヶ月に1度、外部より講師を招き、法人内事業所と合同で研修会を行われている。「コミュニケーションのとり方」「介護技術」等、職員の知識や技術、又、「意識の向上」に取り組まれた。職員は、得意分野を活かして業務等を分担し、不得意な部分は補い合いながら、職員間での「和」も大切にされている。このような取り組みもあって、この1年退職者はおられないようだ。

入居するまで、長年音信不通だったご家族に、事業所から連絡を取り、手紙のやりとりを始められたりプレゼント等を送っていただけたようになったような例もあり、ご本人は、とても喜んでおられるようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームこころ今出

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

南 佳子

評価完了日

22年 12月 22日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「信頼・和・安心」の運営理念を実践するため行動目標を掲 げ毎日、唱和して職員全員が周知することで理念の共有に 努めている。	
			(外部評価) 運営理念に沿った行動目標の一つに「入居者及び地域の 方々と共に安心して暮らせる環境作り」と掲げて、地域の方と 交流する中で、信頼関係を築いていけるような取り組みをす ずめておられる。運営理念と行動目標を示した用紙を名札 に入れて携帯する職員や、休憩時間等に目を通し、振り返るよ うにしている職員もいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 近隣の神社の祭りや幼稚園のひな祭りに参加させて頂いた り地域の方々と一緒に消防署からの応急手当講習会や駐在 所から交通事故防止や振り込め詐欺の注意点等をホームで 開催して地域交流の機会をつくるよう努めている。	
			(外部評価) 今年度はじめて、法人事業所と合同で、公民館を借り「夏祭 り」を開催された。地域の方に案内を配布して、50名ほどの 地域の方が来てくださった。金魚すくいやヨーヨー釣り、バ ザー等、地域の子供達も楽しんだようである。又、たこ焼き 等のバザーを地域の方が手伝ってくださった。高校生や大 学生のボランティアの方の訪問もあり、利用者とお話をした り、一緒に食事をして過ごされ、お孫さんのことを思い出され るような利用者もいるようだ。クリスマスには、近くの幼稚園の 園児が、事業所に来てくれて、歌を歌って聞かせてくれたり、 園児が作った小物入れをプレゼントしてくれた。3月のひな祭 りには、幼稚園に招待されており、歌や踊り等を見に行く予 定になっている。畑で採れた野菜を持って来てくださるご近 所の方もいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 今年初めて講師を招いて地域の方々に参加していただき 「認知症ケア」についての勉強会を開催した。ボランティアな ど積極的に受け入れて身近に理解していただけるよう努めて いる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族や外部の方々に、ホームの運営状況等を報告することで現状を知っていただき、また、ご出席者の方々の率直な意見やご要望を頂くことで日頃スタッフが気付きにくい点など発見できそれを、サービスの質の向上に活かせるよう努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所は、この1年、地域の方やご家族に会議に多く参加いただけるよう働きかけ、事業所をより知ってもらい、認知症について理解を深めていただけるよう取組まれた。会議時、消防署の方に来ていただいたの「応急手当講習会」を行ったり、駐在所の方を招き「高齢者の交通事故や振り込め詐欺」についてお話いただいた。又、外部講師を招いて「認知症ケア」の勉強会等、議題を決めて行っておられる。地域には案内を配布したり、ご家族には郵送や来訪時に参加いただけるよう働きかけられた。その結果、6名ほどのご近所の方が参加してくださり、複数のご家族も参加してくださった。民生委員からは「できる限り会議に参加して、地域のためにも事業所と協力してできることを模索していきたい」との言葉をいただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>松山市社協や地域包括センターの担当者へ訪問し交流の機会を図っている。地域包括センターなどの主催の研修会などに参加するよう努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、市の担当者から「手洗いやうがいを徹底し、インフルエンザやノロウイルスの予防に努めるように」と、感染症の情報や助言をいただいた。法人内事業所と合同で行った「夏祭り」には、見学に来てくださった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「身体拘束の廃止に理念及び方針」を事業所内に掲示し身体拘束についての研修も職員全員受講し職員の意識向上に努めている。また、言葉の拘束等や動きを制限する行為などに注意をしている。玄関には、センサーを設置し施錠はしないよう努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>人の出入りが分かるように、玄関付近の内と外側の2ヶ所にセンサーを設置されている。ベットから転倒するおそれのある方は、職員で話し合って畳を敷いて布団で寝るようにされたり、布団の隅に鈴を付けたりされている。7月には、外部講師を招き「身体拘束と虐待」について職員研修をされた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等により職員への意識つけとマニュアルをいつでも閲覧できるようにしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等により制度の理解と活用方法を共有理解できるよう努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に必ず見学して頂き、ご利用者やご家族に十分な説明を行い、意向や思い等を把握・確認し納得された上で入居契約の締結を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・要望用紙を用意しご利用者やご家族の声を積極的に集めるほか、各ご利用者へは担当制をとりできる限り個々のご利用者の思いを現場に反映できるよう努めている。家族会を定期的に関催し家族で話合う機会をつくり個別の要望などを求めて運営に反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月、行事等の写真を多く載せた「こころ便り」を発行されており、ご家族に送付して利用者の表情等を見ていただいている。事業所では、お花見とクリスマスの行事に合わせて、年2回、家族会を開催されている。今年度のクリスマス会には、3名のご家族が参加していただき、利用者と一緒に伊予万歳を見たり、昼食をされた。ご家族同士でお話をされる様子もあったようだ。	ご家族からは「助かっています」等、感謝の声が多く聞かれ、意見や要望が出されることは少な目のようである。ご家族が知りたい情報を探り報告を工夫されたり、又、日中の過ごし方や活動についてご家族の要望をお聞きしたり、職員の体制や異動、医療面や終末期の支援等、ご家族の不安や心配ごとを具体的に引き出して話し合うような機会も作ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、ミーティングを開いている。議題等を職員意見箱に意見を出しやすいよう無記名で入れてもらい運営に関する意見を議題に取り入れている。また、職員のスキルアップのため二ヶ月に一回講師を招いて勉強会を開いている。専門職としての知識を得ることでサービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 事業所では、この1年「職員のスキルアップ」に力を入れ取り組まれており、2ヶ月に1度、外部より講師を招き、法人内事業所と合同で研修会を行われている。「コミュニケーションのとり方」「介護技術」等、職員の知識や技術、又、「意識の向上」に取り組まれた。職員は、得意分野を活かして業務等を分担し、不得意な部分は補い合いながら、職員間での「和」も大切にされている。このような取り組みもあって、この1年退職者はおられないようだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 適正に考課しやりがいのある職場環境を整えるよう努力している。現状では、外部研修を研修ごとに全員参加することが困難なため研修受講した職員が他の職員に伝達研修を開き互いに向上できるよう努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修のほか、二ヶ月に一回講師を招いて勉強会を開いている。外部研修にも積極的に参加できる機会の確保に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括センターの研修や事業者連絡会などに参加し情報交換を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には、事前訪問や見学等でご本人の心身の状態や生活歴や家族背景の把握に努め、ご本人の意向や今後どのような生活を送りたいかできる限りご本人の意向を踏まえたケアの実践に努めるよう職員間でも情報共有を図り同じ思い接することでご本人の信頼構築に努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) キーパーソン以外のご家族にも要望や思いが違うことがあるが、できるだけそれぞれの意向を確認しながら一緒に考えていえるような雰囲気づくりに努め意見や要望等が言える関係づくりに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の現況を確認し、どのようなことが困っているのか不安に思うことがあるのかを傾聴しどのような支援を必要とし求めているのかを見極めホームとしてできる限りの対応に努めるようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 法人で掲げている理念を職員全員が共通理解し実践することで人生の先輩であるご利用者に対する尊敬の気持ちを忘れず日々接することで共に同じ思いで支え合う関係を構築できるよう努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、ご本人の現況報告は必ず行い情報共有に努めている。毎月新聞を発行しご本人の生活状況をわかりやすく伝える工夫や手紙や電話をできるだけご本人ができる支援に努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に住んでいた場所にドライブに行ったり以前から行き着けの美容室を利用し馴染みの関係を続けられるようにしている。社会参加の場として選挙の投票などできるよう支援し手紙の代読や代筆、電話の取次ぎなど職員以外との交流が図れるよう努めている。 (外部評価) 入居するまで、長年音信不通だったご家族に、事業所から連絡を取り、手紙のやりとりを始められたりプレゼント等を送っていただけようになったような例もあり、ご本人は、とても喜んでおられるようだ。車の運転ができないご家族の送迎等にも協力して、利用者で面会する機会を作っておられる。市外のお墓参りに職員が同行してお参りに出かけたり、時には以前の仕事の同僚やご自宅の近所の方が、訪ねて来てくださることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士の共通の話題の提供や協働作業の工夫や一緒にできるレクリエーションの提供など日々の生活の中で関わりが持てるよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了された方にも何かあればいつでも相談にきてほしいと伝えている。入院加療が必要となり終了した方などお見舞いに行くなどできる限り今までの繋がりが途切れないよう努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活での関わりからご本人の状態を理解し声かけや表情や態度で変化を把握し、日常の会話の中で希望や意向を把握していくよう努めている。コミュニケーションの困難なご利用者は、いろいろなツールを活用して推察したり担当職員からの情報やご家族との情報交換・相談等を行ないできる限りご本人の意向に沿うよう努めている。 (外部評価) 入居時に、フェースシートを作成して「今までの生活」や「嗜好品」「好む話・好まない話」等についてご本人やご家族に聞き取っておられる。管理者は、運営推進会議時、一人暮らしの方や高齢者ご本人からの話をお聞きして、利用者の入居以前の暮らしを察する参考にもされている。「日常生活動作」等、身体状況のアセスメントを行い、介護計画作成につなげておられる。	職員は「利用者ができることを続けられるような支援」を目指しておられる。ご本人の思いや意向を引き出す工夫を重ねられアセスメントに取り組み、介護計画に反映して、さらなるご本人主体の支援に取り組んでいかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にはご本人、ご家族、関係機関からできる限りの情報を収集し入居後も同様にご利用者との会話の中から把握できることやご家族や知人の面会時にお話を伺い把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご利用者個々の心身の状態と日々の生活リズムの把握に努め現状の変化を見逃さないよう介護記録や朝、夕の申し送りや各担当者からの報告や週に1回介護計画を評価しミーティング時検討し職員全員が現況を把握し柔軟な対応ができるよう努めている。	
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画の作成、更新時、状態変化時には、ご本人への意向や希望を確認すると共にご家族の意向や希望の確認、主治医、リハビリの先生などにアドバイスを頂き計画に反映し、ケアカンファレンスを開催して職員の意見など取り入れ課題の共通認識を持つことで現況に即した介護計画を作成することに努めている。	
			(外部評価) ご本人ご家族の暮らしの希望をお聞きし、管理者と職員でカンファレンスを行い、管理者が計画を立てておられる。計画作成後は、ご家族の来訪時や郵送にて介護計画内容を見ていただき、ご意見をうかがい「リハビリを増やしてほしい」とのご家族からの要望を計画に採り入れる等されている。モニタリングは、利用者個々の担当職員が週1回行い、3ヶ月毎に介護計画を見直すようになっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の様子やケアの実践、経過や結果、その日の気付き等を個別ファイルやご利用者の一日の様子が確認できる用紙に記入し情報共有やケアの実践が計画通り行っているか援助内容の見直しが必要かが判断できることで実践への反映に活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のご本人やご家族の希望やその日の体調を考慮しご利用者の日常ペースとニーズに合わせて食事時間の変更や内容などその人に合った対応を可能な限り柔軟なサービス提供できるよう取り組んでいる。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 災害時の安全確保のため、消防署指導の下ご利用者、ご家族、地域の方々と一緒に緊急時の応急手当の講習会や派出所から交通事故防止などの勉強会を開き地域と一緒に安全確保に努めるほか地域の季節行事の参加やホームの行事に地域の方々に参加して頂くことで交流の機会をつくり地域との繋がりを持てるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人・ご家族が希望する医療機関での受診ができる体制をとっている。その他、状況によって専門医での受診は、ご家族の都合もあり柔軟に職員が通院介助を支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>すべての利用者が、事業所の協力医をかかりつけ医とされている。協力医が2ヶ所あり、どちらの協力医も24時間対応が可能で、それぞれ往診に来てくれている。他科受診時は、ご家族が付き添ったり、ご家族の都合によっては、職員が同行して支援されている。調査訪問時、泌尿器科にご家族と受診に出かけられる方がおられた。歯科は、訪問歯科で診てもらえるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>訪問看護の訪問時にはご利用者の体調変化や日常の様子など情報の共有を図り、医療面からの指導、助言を頂き日々の健康管理や医療との連携がスムーズに行えるよう支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入院時にはご本人へのケアに関する情報等をご家族の同意のもと医療機関に提供している。入院中は定期的に病院へ訪問しご本人の状態の確認を行いご家族や医療機関との情報交換に努め退院後ホームでの生活が不安なく戻れるよう連携を図るよう努めている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時にご本人・ご家族と重度化した場合やターミナルケアのあり方について説明をしている。実際の状態によって主治医やご家族とカンファレンスを開いてご本人やご家族の意向を確認して方針を共有できるよう支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居時「事業所で看取りが可能である」ことを説明して、事業所で「できることできないこと」についても話しておられる。食事が口からとり難い利用者の点滴に、職員が毎日付き添い、ご本人の状態は毎日ご家族に電話で連絡されている。事業所では利用者が「口から食事が食べられなくなったら、事業所で支援することは難しくなる」と考えておられる。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時「事業所で看取りが可能である」ことを説明して、事業所で「できることできないこと」についても話しておられる。食事が口からとり難い利用者の点滴に、職員が毎日付き添い、ご本人の状態は毎日ご家族に電話で連絡されている。事業所では利用者が「口から食事が食べられなくなったら、事業所で支援することは難しくなる」と考えておられる。</p>	<p>利用者やご家族の終末期のあり方の希望等を踏まえて、事業所の重度化や看取り支援の体制について職員と話し合い、さらなる体制を整えていかれてほしい。職員にも不安な点もあるだろうが、職員のスキルアップに力を入れている事業所でもあり、職員のチームワークを活かし、ご家族やご本人にかかわる人達と協力し合って、利用者個々の「安心」に向けた支援をすすめていかれてほしい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者やご家族の終末期のあり方の希望等を踏まえて、事業所の重度化や看取り支援の体制について職員と話し合い、さらなる体制を整えていかれてほしい。職員にも不安な点もあるだろうが、職員のスキルアップに力を入れている事業所でもあり、職員のチームワークを活かし、ご家族やご本人にかかわる人達と協力し合って、利用者個々の「安心」に向けた支援をすすめていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急や事故発生時の日中・夜間の対応体制・対応マニュアルを掲示している。緊急連絡網を作成し緊急時に備えている。消防署を招いて応急手当の勉強会を開いて実際に備えている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練と消防署員からの消火器の使用方法・通報訓練・避難誘導について指導を受けている。防災計画書を作成し、非常備蓄品など準備している。また、地区の婦人防災クラブなどと連携を図れる体制構築に努めている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っておられる。運営推進会議を通して、地区の婦人防火クラブの会長や近隣の方に、いざという時には協力していただけるよう口頭でお願いをされている。事業所では、食料や水を備蓄されており、カセットコンロも確保され「水害時は、事業所の2階部分を避難場所」として使ってもらえるよう、会議の中で話しておられる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 基本理念と行動目標に掲げているように職員全員が、毎朝、唱和し共有理解に努めている。また、認知症の理解やコミュニケーションについての研修等で理解を深め実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 認知症の方や高齢者に対するコミュニケーションについて勉強をされ、職員は「無理強いするような声かけは、虐待につながる」との考えのもと「利用者の人格を尊重した声かけ」ができるよう気を付けておられる。	食後の義歯の取り扱いや車いすの使い方等、利用するご本人の気持ちと周りの利用者への配慮等、職員が心配り等できることはないか、この機会に点検したり話し合われてみてはどうだろうか。研修等で勉強したことを日々のケアにつなげて、利用者の尊厳ある暮らしを支えていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の希望や意向が表せない方にはできる限り日常の表情や動作の中から推察したり選択できるよう筆記等ツールを用いてご本人の希望に沿えるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの一日の流れはあるが、個々の希望やその日の体調を考慮しご利用者のペースとニーズに合わせてサービスが提供できるよう日々取り組んでいる。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 生活着などご本人が選択できる方以外は、一緒に選んだりご本人の趣向を理解するよう努めている。訪問理容の活用以外にご本人の選択により美容室へ行く方もいるため柔軟に対応している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 通常は、献立に沿ったメニューとなっているが、季節行事や誕生日の方のお好みをお聞きしてご本人の好物をメインに作っている。食の楽しみを持って頂くため季節に応じたメニューなど提供するよう心かけている。調理の下ごしらえや食器拭きなど個々の状態に応じて負担にならないよう考慮しながら一緒に行っている。	
			(外部評価) 法人内の調理担当職員が作成した献立表を参考にして、事業所で食事を作っておられる。食材は、法人代表者が買い出しに行かれたり、配達を利用しておられるが、足りないものがあれば、利用者と一緒に近くのスーパーに買い物に行くようにされている。誕生日は、利用者の希望をお聞きして作っておられ、お寿司や天ぷら等を好まれる方が多いようだ。行事時には、バイキング形式にされることもある。利用者は、もやしの根とりやごぼうのささがき等がされている。調査訪問時、ご自分のお膳を下げる利用者も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせ食事形態の工夫や水分摂取の困難な方はトロミの活用など食事量と水分摂取の確保に努めている。自力摂取の困難な方は介助・見守りを行い支援している。毎食の食事や水分の摂取量を記録し職員が情報を共有している。主治医や訪問看護師にも訪問時に確認して頂き指導のもと健康管理に努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、うがい歯磨き、義歯の洗浄の声かけ・介助を行っている。義歯の方はポリデント洗浄を定期的に行い、うがい用コップやブラシ等も定期的に漂白洗浄し清潔に努めている。また、口腔内の状態により必要に応じて訪問歯科診療の治療を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンにあわせてトイレでの排泄支援を考え声かけ誘導や介助を行っている。トイレ誘導時にはご本人の自尊心を尊重するよう配慮に心がけている。 (外部評価) 車椅子を使用している利用者も尿意のある方は、夜間でもトイレで排泄していただけるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) スムーズな排便を促すため体操・個別運動・散歩など行い適度に身体を動かしていただけるよう取り組んでいる。水分の摂取や乳製品・繊維の多い食材を摂取できるよう心がけている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は原則一日おきであるがご利用者の希望や体調を考慮し柔軟に対応している。入浴が苦手なご利用者は声かけの方法や時間帯などの工夫をし入浴が負担とならないよう支援している。 (外部評価) 12月から2月の寒い時期は、基本的に3日に1回、午後からの入浴となっている。その他の季節は、2日に1回入浴できるよう支援されている。浴室の入り口には「こころ温泉」と書かれたホワイトボードがあり、その日に入浴する利用者名と順番を示しておられた。事業所では、利用者一人ひとりがゆっくりと入浴できるよう、声かけや雰囲気作りをされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はソファでテレビを観たり和室で休まれたり個々のペースで過ごされている。雑誌や新聞を定期的に購読している。就寝時間も個々に合わせて昼夜逆転にならない程度に居室でテレビを観て頂いたり不穏時は落ち着いて休まれる状態になるまで職員がお話相手になり落ち着かれて入眠できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルの作成や処方箋を個人ファイルに閉じ職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更時には、受診ノートと連絡ノートに記入し申し送りの徹底に努めている。高齢者の薬の作用についてなど研修を受講し正しい知識の習得に努めているか。状態観察と経過観察は必ず記録し主治医へ報告・相談をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を勘案して個々にあった作業の手伝いをお願いすることで、意欲向上に繋がるよう支援している。カラオケや工作編み物・塗り絵・ゲームなど参加しやすいレクリエーションを多く取り入れ楽しみや気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くの河川に生息している鯉の餌やりという目的を持って散歩に出たり、買い物へ出かけたりしている。地域の季節行事や初詣や菊花展・イチゴ狩りやぶどう狩りなど季節に応じて外出する機会をつくるよう心掛けている。希望に応じてドライブ先をご本人が住んでいた場所などに行くこともある。 (外部評価) 天気の良い日は、毎日のように散歩に出かけられている。利用者は、近くの河川にいる鯉の餌やりを楽しみにされており、調査訪問時も午後から出かけて行く様子がかがえた。空港に飛行機を見に行ったり、港に船を見に出かけたり、ドライブを楽しまれることもよくある。職員手作りのお弁当を持ってイチゴ狩りやぶどう狩りに出かけることもある。初詣は、近くの三島神社を参拝された。テレビCM等を見て利用者から希望があり、近々、県美術館の展示物を4名ほどの方が見学される予定となっていた。ご家族も一緒に行く方もあった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 毎週パン屋さんが訪問されその時に普段なかなか買い物に出られないご利用者も自身で選び購入する楽しみを持って頂いている。金銭管理は職員が行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族へご本人自ら電話したり手紙を書いたりできない方には定期報告など事業所から電話連絡や郵便物を送付するときにご本人とやりとりする機会をつくっている。手紙の代筆等できるだけ他の交流の機会をつくるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>空間づくりにはご利用者の意見を取り入れ季節に応じた飾りつけなど一緒に行って季節の移り変わりを意識できるよう心掛けている。リビングの壁面に掲示するカレンダーも毎月、季節に応じてご利用者と作成している。トイレや浴室など暖簾を利用して開閉時に見えないよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、居間の大きな窓からは明るく暖かな陽が入り、自然の温もりが感じられた。利用者はテーブルを囲み、職員と一緒に風船パレーをされたり、時間によってぬり絵をされたり、洗濯物をたたんだりされる様子がうかがえた。2階のホールエレベーター前の踊り場にテレビがあり、降る順番を待つ間、利用者が見られるようだ。時代劇のお好きな方は、番組が始まるとテレビの前の椅子に移動して見ておられた。午後からは、畳コーナーでお昼寝する方もいる。2階の壁には、職員の写真と名前を掲示しておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアにソファを用意し食後やテレビを観るなどくつろいで頂ける場所となっている。和室部分があり和室へ上がる高さが座れる高さとなっているため腰掛けて休まれる姿が見られる。また、和室で横になって休むこともある。ウッドデッキでタバコを吸ったり外気浴を楽しまれたりされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室にはご利用者の思い出の品やご家族の写真、毎年、誕生日にご利用者へ送る写真つきの色紙など飾っている。テレビや使い慣れた家具を設置しているご利用者もお喜びご本人の過ごしやすい環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>窓からの日差しが入りにくい居室は天窓が作られており、自然の光を採り入れられるよう工夫されている。出窓には、観葉植物を飾り、水やり等の世話をする利用者もおられる。夜間は、各居室に職員がペットボトルにお茶を用意しておられ、又、濡れタオルをハンガーにかけて湿度調整にも気を付けておられる。ご家族の写真や仏壇を持ち込まれている方も見られた。居室は、2階部分にあり、昼間は1階の居間で過ごすことが多いようだ。</p>	<p>利用者が居室でくつろげるような時間を作ったり、しつらえ等にも工夫してみてもどうか。ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく、その人らしく暮らせるような居室の環境作りに取り組まれてほしい。</p>
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>各居室の入り口にはご本人の写真入りのネームプレートを設置しご本人の居室がわかりやすいよう工夫している。廊下・トイレ等には手すりを設置し歩行時の安全を図っている。トイレや洗面所・浴室などわかりやすいよう大きな案内板を設置している。洗面所は車椅子での利用が可能なるよう配慮した設計となっている。</p>	